

すいさん山形

漁民と手をつなぐ広報誌

No. **370**

令和5年 / **5** 月号

山形県漁業協同組合
広報誌



鼠ヶ関神輿流し

厳島神社祭典

4月15日(土)鶴岡市鼠ヶ関地区で、「弁財天」を祀った祭典、厳島神社祭典が執り行われました。

今回は4年ぶりに神輿流しも行われ、神の使いとなった白装束の若者たちが、神輿を担いで家々を練り歩くと、そのまま鼠ヶ関川に入り、雪解けでまだ冷たい川の水をかけ合いました。水のか

け合いは、単に体を洗い清めるだけでなく、神の霊力を強めるための呪術の一種だともいわれています。

海とともに生きる地元住民が、大漁と航海の安全を願い大切に歴史を紡いできたお祭りです。



県沿岸市町の令和5年度予算・重点事業について

山形県

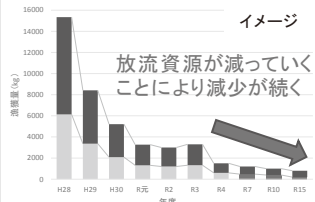
資源状況が悪化しているアワビの緊急放流支援を行います！

近年、アワビの漁獲不振が続いている影響で種苗放流数も減少しています。アワビ資源の回復には、不漁原因の究明もさることながら、放流数の維持増大が不可欠であることから、県では、令和5年度から漁業者の放流経費の一部を支援し、放流数を維持する新規補助事業（栽培漁業重要魚種資源回復支援事業：令和5年度当初予算1,634千円）に取り組んでおります。

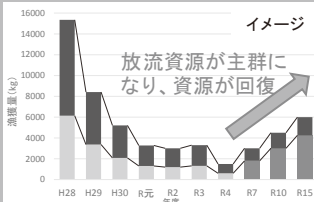
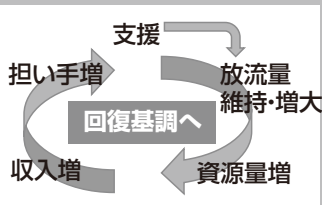
＜アワビ放流事業の役割＞

- ・山形県内で漁獲されるアワビにおける放流貝の割合は約40%
⇒【放流貝：アワビ資源における重要な役割】

事業を実施しない場合



本事業の実施



放流効果の向上に向け、本事業と併せて、各浜で取り組まれている丁寧な種苗放流と適期放流を推進することで、より効果的に資源回復させることが可能であると考えています。栽培漁業の優等生と言われてきたアワビの資源を回復させることで、持続可能な魅力ある沿岸漁業の復活に繋げていきましょう。

山形県農林水産部水産振興課

主査 工藤 充弘

令和5年度水産関係予算について

鶴岡市では、第2次総合計画の目標「水産物の安定供給と漁村の活性化」の実現に向けて漁業振興を図ります(以下、県との協調事業を含めて一部を掲載)。

1 担い手の育成・確保

- ・新規独立者の漁船・漁具の購入等への補助や信用保証料への補助
- ・研修時の引越しや家賃への補助
- ・漁家子弟の研修への補助

2 漁業生産の拡大

- ・漁獲量の増加や操業時の安全性向上などに向けた漁業者の意欲的な取組へのオーダーメイド型補助
- ・漁業者の種苗放流や藻場保全活動への補助
- ・赤川でのサケ資源増殖活動への支援
- ・市管理漁港のしゅん渫

3 水産物の高付加価値化と消費拡大

- ・漁業者、仲買人、料理人、高校生等連携による低利用魚活用の推進
- ・県漁協の学校給食への地魚加工品供給事業への補助
- ・子供や保護者への魚食普及活動「お魚出前教室」

4 漁村の活性化

- ・由良海洋釣り堀等を活用した地域活性化への支援
- ・鼠ヶ関への「道の駅」整備を見据えた鮮魚販売の実証実験

また、近年は漁獲量の減少、漁業者数の減少、物価高騰など、漁業を取り巻く状況が大変厳しいため、本市水産振興の方向性を定める「第3次水産振興計画」の策定期間を1年延長して漁業関係者との対話を重ね、実効性の高い計画を作ります。

鶴岡市農山漁村振興課 主査 五十嵐 崇



マグロ釣り機の導入など意欲的な取組を支援します



獲れる魚の変化に対応するため、研究会を作り低利用魚の活用を進めます



鶴岡市





水産業全体の活性化と振興を図る取り組みを推進します

○本市水揚量の8割を占めるスルメイカを旗印として「いかのまち酒田」を発信することにより、水産業全体の活性化につなげます。

○いか釣り船団出航式の開催と地域資源として活かす取り組みによる交流人口の拡大を目指すほか、イカを提供する市内飲食店を増やし、活イカの生産・流通システムの整備にも取り組みながら、地産地消を推進します。また、大都市圏のバイヤー等との商談会や視察会等による販路の新規開拓にも努めます。

○飛島地区の基幹産業である漁業の再生を図るため、生産力向上等に関する取り組みに支援するとともに、アワビ、サザエ、ヒラメ、キジハタの種苗放流を継続し、資源量の維持・増加を図ります。

酒田市農林水産課 課長補佐 齋藤 圭



養殖あわびの安定供給に向けて

令和5年度の遊佐町主要施策における重要事業の一つに、水産分野ではあわびの陸上養殖事業があります。実証試験として平成27年から開始し、町職員を中心に養殖事業を行ってきましたが、今年度から飼育、加工品開発の分野については民間業者への委託を開始しました。さらなる生産性の向上と、鳥海あわびのブランド化を目指します。今後は定期的に必要量を供給できる体制の構築と、新たな加工品開発に向けて、委託業者と連携しながら進めていきます。課題となっていた販路拡大についても、道の駅「ふらっと」に卸売りすることで新たな事業展開を図っていきます。

また県との連携事業として令和3年度から実施している、山形県水産業成長産業化支援事業についても、今年度は多数の応募をいただき、申請の手続きを進めております。今後も関係機関と情報共有しながら事業を進め、水産業の振興と地域活性化に向けた取組みに対し支援していきます。

遊佐町役場産業課 水産林業係長 佐藤 陽紀



- ※販売手数料の改定について
反対意見はなかった。
- A 最終的に理事会で決定する。水揚げだけに頼らない経営を目指していく。
- Q 法木地区の氷倉庫風除室の屋根が壊れている。修理又は撤去してほしい。
- A 修理は厳しいので撤去する方向で進めさせてほしい。
- Q 販売手数料を1%上げるのは確定なのか。職員の給料など考えたら販売手数料を上げることに賛成する。

3月17日(金)
午前11時出席者15名

飛島支所

令和4年度

地区座談会

(前号の続き)





第12回 日韓民間いか釣り漁業協議 開催



去る、4月12日(水)、韓国済州道新羅ステイホテルにおいて、第12回日韓民間いか釣り漁業協議が行われました。本協議には日本側より、全国いか釣り漁業協会 中津達也会長、同協議会理事であり、(有)山下水産 代表取締役 山下久弥氏、石垣漁業(株)第86若潮丸漁労長本間健氏、山形県漁協西村盛専務他10名が参加しました。また、韓国側からは、全国近海いかつり連合会 河 在元会長、全国いかつり船主実務者連合会 金 月光会長、全国近海いかつり連合会 東草支会 陳 永萬会長他8名が参加しました。

この協議は14年前より行われており、近年は大和堆付近での北朝鮮の違法操業をはじめ、日韓それぞれ自国だけでは解決できない様々な問題や課題が増えてきたことに加え、漁場でのトラブル等の回避に向け、より現場に近い声が求められていることから、今回は全国いか釣り漁労長連絡協議会の会長でもある本間漁労長の参加が実現しました。

協議ではまず初めに、両国間の操業状況等についての意見交換がされましたが、日本同様、韓国でも漁獲量が大幅に減少しており、ロシア海域での操業についても、ロシア・ウクライナ情勢に起因する許可発行や送金等の問題を抱えているとのことでした。

その後、安全操業のためのルール等について協議されました。その中で日本側は自国における操業のルールを説明した上で、日韓暫定水域内操業については安全確保のため適正な船間距離を取るようお願いし、韓国側からは理解が示されました。なお、本協議については来年日本での開催が予定されておりますが、この協議とともに両国のいか釣り漁業がより良く発展していくことを心より願います。

理事会情報

令和4年度 第9回 理事会議案
開催日…令和5年3月28日(火)
場所…第一会議室

協議事項

- 1 令和4年度2月末現在の収支状況について
- 2 令和4年度決算方針(案)について
- 3 第58事業年度通常総代会の開催と議長選出について
- 4 令和5年度における貸付金利率の最高限度額及び同一人に対する信用供与等の最高限度額について
- 5 余裕金の預け入れ先の決定について
- 6 令和5年度JF共済浜のあんしんサポート運動計画について
- 7 令和5年度における理事の購買売掛限度額設定(案)について
- 8 令和5年度内部監査計画(案)及び職員研修計画(案)について
- 9 令和5年度コンプライアンス・プログラム(案)について
- 10 「新たな事業変革実践計画(県域アクションプラン)」の策定について
- 11 令和5年度潜水漁業(すもぐり)の制限について
- 12 山形県議会議員選挙候補者の推薦について
- 13 令和5年度販売売掛金与信極度額設定(案)について
- 14 販売規程の一部変更について
- 15 労働保険事務組合事務処理規約の一部改定について
- 16 貸倒償却及び貸倒引当金の計上基準の改訂について
- 17 信用事業手数料の改定について
- 18 当組合における取引のリスク評価書の年次改定について
- 19 貸付金の審議について

【報告事項】
令和4年度地区座談会開催状況について

- 2 貸付金利の改定について
- 3 令和4年度経営基盤強化支援(コンサル)事業最終報告について
- 4 組合員の加入・脱退・減資について
- 5 人事異動の内示について
- 6 その他

令和5年度 第1回 理事会議案
開催日…令和5年4月18日(火)
場所…第一会議室

協議事項

- 1 令和4年度資産自己査定による償却・引当金の決算計上について
 - 2 令和4年度事業収支状況について
 - 3 正組合員以外の理事並びに員外監事の推薦について
 - 4 定款・規約の一部改正(案)について
 - 5 漁業生産力の発展に関する計画(共同漁業権)の履行状況の点検について
 - 6 ATMの新替にかかる検討について
 - 7 組合員資格審査委員会の答申を踏まえた組合員の新規加入並びに資格審査について
- 【報告事項】
1 債権管理委員会の報告について
- 2 令和5年3月末現在における資金運用状況について
 - 3 貸付金利率の改定について
 - 4 令和4年度さけ資源の増大を目的とした放流事業の実績報告について
 - 5 冷凍保管料の改定について
 - 6 コンプライアンス推進委員会の開催について
 - 7 令和4年度第4四半期における販売促進活動について
 - 8 水揚優秀船の表彰について
 - 9 令和4年度漁業権行使料徴収実績について
 - 10 令和4年度「庄内海丸」の収支について
 - 11 組合員の加入・脱退について
 - 12 人事異動の内示について
 - 13 その他

人事異動のお知らせ

山形県漁業協同組合

◆異動(令和5年4月1日付)(旧所属)

長瀬 光由 由良総括支所次長
〔由良総括支所次長(豊浦支所担当)〕

佐藤 健 信用共済課長
〔指導課長〕

大淵 敬三 指導課長
〔信用共済課長〕

佐藤 一樹 豊浦支所長代理
〔由良総括支所長代理〕

佐藤 和敏 購買課係長
(第18漁連丸船長)

後藤満智子 さかた総合市場係長
〔さかた総合市場〕

本間 恵子 信用共済課係長
〔信用共済課〕

鈴木 峰明 念珠関総括支所係長
〔念珠関総括支所〕

伊藤 友裕 由良総括支所係長
〔由良総括支所〕

菅原 和行 由良水産加工工場
〔由良総括支所〕

佐藤 昌弘 由良総括支所
〔由良水産加工工場〕

◆退職(令和5年3月31日付)

佐藤真由美 (豊浦支所)(定年退職)

田宮 海輝 (念珠関総括支所)
(自己都合退職)

◆定年退職者再雇用職員
(令和5年4月1日付)

佐藤真由美 豊浦支所

◆再雇用職員 退職(令和5年3月31日付)

土田 真一 (雇用契約満了)

◆嘱託職員 採用(令和5年4月1日付)

土田 真一 指導課

◆異動(令和5年5月1日付)(旧所属)

安藤 大栄 総務部長兼指導課長
〔総務部長兼管理課長〕

本多 篤 管理課長
〔管理課長代理〕

◆退職(令和5年4月30日付)

大淵 敬三 (指導課長)
(自己都合退職)

全国合同漁業共済組合 山形県事務所

◆就任(令和5年4月1日付)(旧所属)

田代 善幸 所長(委嘱・運営員兼務)

◆退職(令和5年3月31日付)

佐藤 公一 (所長)(定年退職)

◆再雇用(令和5年4月1日付)

佐藤 公一 参与

山形県水産関係職員

(令和5年4月1日付)(旧所属)

●庄内総合支庁産業経済部 水産振興課

佐藤 和徳 漁港整備主幹
〔庄内総合支庁産業経済部農村計画課計画調整主幹〕

金内美津恵 課長補佐
(総括・海洋監視担当)

〔庄内総合支庁産業経済部地域産業経済課課長補佐〕

石黒 昌弘 課長補佐
(漁港整備担当)

〔最上総合支庁建設部河川砂防課課長補佐〕

富樫 高広 総務主査兼総務係長

〔最上総合支庁保健福祉環境部環境課環境企画主査〕

伊藤 寛和 漁業調整主査

〔港湾事務所港政主査〕

工藤 創 専門水産業普及指導員
(振興普及担当)

〔内水面水産研究所専門研究員〕

佐藤 京介 技師(漁港整備担当)

〔庄内総合支庁産業経済部農村整備課技師〕

阿部 進 技術技能員(総務係)

〔庄内総合支庁建設部道路計画課技術技能員〕

●県庁 農林水産部 水産振興課

小宮山奈津子 課長補佐(水産加工・流通担当)

〔環境工本ルギ一部循環型社会推進課課長補佐〕

伊澤幸太郎 水産行政主査

〔農林水産部水産振興課主査〕

青木 啓介 水産加工・流通主査

〔庄内総合支庁産業経済部農業振興課農産振興主査〕

皆川 太希 主査(水産行政担当)

〔教育庁生涯教育学習振興課主査〕

早坂 瞬 主査(水産行政担当)兼主査

〔庄内総合支庁産業経済部水産振興課専門水産業普及指導員〕

工藤 充弘 主査(水産成長産業化担当)

〔農林水産部水産振興課主査〕

鈴木 悠斗 主査(水産成長産業化担当)

〔内水面水産研究所研究員〕

鈴木 拓海 技師(水産加工・流通担当)兼技師

〔水産研究所研究員〕

●水産研究所

渡部 由美 総務課長

〔鶴岡北高等学校事務長〕

太田 稔章 研究員

〔農林水産部水産振興課技師〕

※他公所への転出者につきましては、掲載を省略させて頂きましたのでご了承ください。

総会・総代会の日程

●山形県漁業協同組合

《通常総代会》《臨時総会》6月27日(火)
午前10時 本所・講堂

●日本漁船保険組合

《通常総代会》6月21日(水) 午後2時30分
(東京都) 東京プリンスホテル

●全国漁業信用基金協会

《通常総会》6月30日(金) 午後2時
(東京都) オーラム

●全国合同漁業共済組合

《通常総代会》6月22日(木) 午後3時
(東京都) KKRホテル東京

●全国共済水産業協同組合 連合会 (JF共水連)

《通常総代会》7月21日(金) 午後1時30分
(東京都) 神田スクエア

退職者のご挨拶

山形県漁協 豊浦支所 佐藤 真由美

28年という長い間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

3月号に依頼がなく「ラッキー」って思ったので、え〜今更という思いと、老化もひどく写真載せたくない〜と複雑な心境でこれを書いています。

漁協に縁がなかった私が職員となり、様々なことや魚を覚え、成長できましたのも周りの方々のおかげと感謝しております。と、同時に多くの方々にご迷惑をおかけしたと本当に申し訳なく思っております。

4月より再雇用という形で、また働かせて頂いております。還暦を過ぎてまだまだ未熟で、またご迷惑をおかけする事もあると思いますが、これからもよろしくお願い致します。



(公財) 山形県水産振興協会 業務部長 余語 滋

私事ではございますが、この3月に退職を迎える事となりました。

長年にわたり漁業者の皆様、並びに水産関係者の皆様方には、大変お世話になり感謝申し上げます。

昭和61年に入社し、37年間という中で、ヒラメやアワビ、トラフグ等の種苗生産と放流事業に携わり、漁業者の方々の経験や知識に触れた事は、私の水産人生における貴重な宝となりました。また、放流効果調査のためお邪魔した市場での荷捌きやセリの現場は、全てが新鮮（もちろん魚も新鮮!）であり、そこでお世話になった漁協職員の方々や、市場関係者の方々と交流も貴重な学びとなりました。改めてこの場をお借りお礼申し上げます。

4月からは再任用職員として、もうしばらく皆様のお世話になりますので、今後ともよろしくお願い致します。



酒保の海だより

酒田海上保安部から皆様のお役に立つ情報第七弾!!
漁業従事者の高齢化・一人乗り漁船 という現実
何かできないのか、今一度考えて見ましょう

家族や知り合いとのこまめな連絡

“出港や入港”“漁の開始や終了”などこまめに携帯電話で入れましょう。
もしも連絡がなくなったときに早く異常に気づいてもらえるのと
各電話会社では最終通話地点を割り出すことができるので
どこに救助に向かえばよいか早期に割り出すことができます。

監視カメラ（ネットワークカメラ）

スマホやポケットWi-Fi（ワイファイ）などの電波が届く範囲であれば
ネットワークカメラ（4千円位）を操舵室につけておくというのも一考です。
これは家族や知り合い側から好きなときにカメラにスマホでつなぎ
画像を確認・カメラ操作もできる（酒田保安部ホームページの
ライブカメラと一緒にです）という優れたものです。



海の事件・事故は電話118番

酒田海上保安部

最上川・月光川の 河口基点(海と川の境界)を 緯度経度で表示します

令和5年9月1日～

～境界の上流は川のルール、下流は海のルールが適用されます～

山形県では、海と川の境界を「河口部の両岸を結ぶ線分」としています。

防波堤等により河口基点が変動しない最上川・月光川については
令和5年9月1日から緯度経度で表示することとします。

それぞれの海と川の境界は、下記の基点を結んだ線分です。

【最上川】

右岸基点(防波堤上)

北緯 38度55分30.2秒

東経139度48分33.6秒

左岸基点(導流堤先端)

北緯 38度55分18.6秒

東経139度48分27.2秒

【月光川】

右岸基点(防砂堤上)

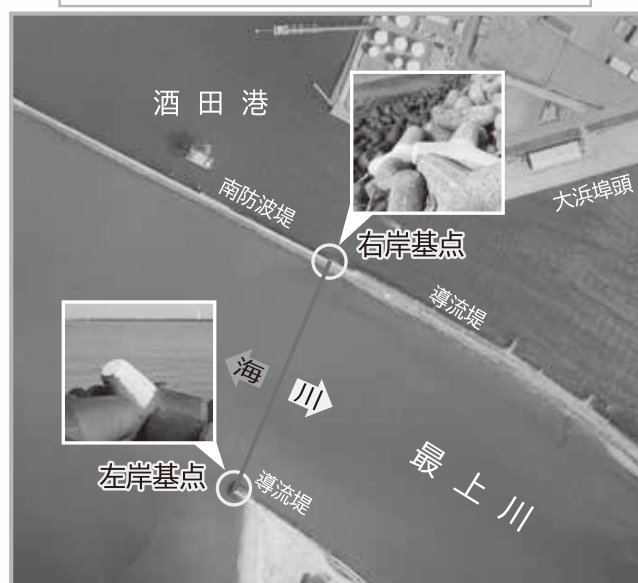
北緯 39度04分17.1秒

東経139度52分12.4秒

左岸基点(防波堤上)

北緯 39度04分14.2秒

東経139度52分12.2秒



提供:国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス(画像は加工してあります)

最上川・月光川河口基点の目印として、基点付近を黄色で塗装しています

【注意】 港湾及び漁港管理者が立入禁止としている
防波堤や離岸堤等の区域に立ち入ることはできません！

参考 最上川河口基点から上流500mまでの区域は、山形県漁協・両羽漁協の定める規則により、さくらの採捕が禁止されています。

※ 海と川のルールについては、ホームページから確認してください。



遊漁のルール
とマナー
山形県の海面



釣りのルール
とマナー
山形県の内水面

山形県庄内総合支庁水産振興課

☎0234-24-6046

令和5年度 漁船保険等の料率 改正について

(日本漁船保険組合山形県支所)

去る令和5年1月19日に開催された日本漁船保険組合臨時総代会において、令和5年度の保険料率改正等に伴う保険約款の一部変更が承認され、その後農林水産大臣より認可を受けました。

今回の改正では、山形県の漁船保険加入船の大半を占める20トン未満の小型漁船階層について、全体的に保険料率が引き下げとなっています。

4月1日より適用される令和5年度保険料率改正の概要を以下の通りご報告いたします。

1、普通損害保険

- 純保険料率 現行の料率と比べ、全体では5.12%の引き下げ
無動力・0-100トン引き下げ、100-1,000トン引き上げ

漁船保険の令和5年度設定料率

トン数区分	令和3年度料率実効値(a)	令和5年度設定料率(b)	実効値(a),(b)対比 (%)
N・0-5トン	1.7394	1.70	-2.27
5-20トン	1.4365	1.34	-6.72
20-50トン	1.3165	1.00	-24.04
50-100トン	1.1072	0.89	-19.62
小 計	1.5418	1.45	-5.95
100-200トン	0.9160	0.95	3.71
200-1000トン	0.4316	0.45	4.26
合 計	1.2858	1.22	-5.12

注：料率実効値は令和3年度実績（通常部分を短期補正）

- ソナー割増の見直し ソナー強度向上等により、ソナーの損害が減少傾向にある現状を踏まえ、保護外被がないソナーに係る割増率を、現行10%から5%に引き下げ

2、漁船船主責任保険（基本損害）

- 純保険料率 現行の料率と比べ、全体では2.66%の引き下げ
無動力・0-5トン引き下げ、5-20トン据置き、20-1,000トン引き上げ

漁船船主責任保険基本損害のトン数区分別純保険料改定率

(単位：千円)

トン数区分	令和3年度純保険料	令和5年度期待純保険料	対令和3年度純保険料 (%)
無 0-5トン	686,660	605,634	-11.80
5-10トン	341,901	341,901	0.00
10-20トン	467,105	467,105	0.00
20-50トン	15,810	17,391	10.00
50-100トン	71,306	73,445	3.00
小 計	1,582,782	1,505,476	-4.88
100-1000トン	277,384	305,122	10.00
合 計	1,860,166	1,810,599	-2.66

注：トン数区分毎の端数処理の関係により期待保険料の合計が1千円多い結果となっている。

3、漁船積荷保険

- 純保険料率 0～100トン及び100～200トンは据置きとし、200～1,000トンについては引き上げ

4、その他の保険種目

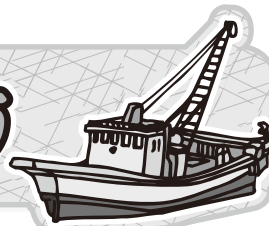
- 漁船船主責任保険乗客損害及び人命損害、漁船乗組船主保険については据置き

5、付加保険料率について

- 基準付加保険料率 全保険種目据置き



何でも魚ッティング



マグロのヤケ肉を防ごう！

この記事が皆様に届く頃には、「クロマグロ」が獲れ始めているでしょうか。近年では庄内浜でも30kg以上の大型魚が多く水揚げされるようになりました（図1）。

今回はクロマグロの鮮度保持をテーマに取り上げます。クロマグロの品質で大きな問題になるのが「ヤケ肉」という現象です。ヤケ肉が発生すると、身が白っぽくまたは茶褐色に変色し、パサパサしたり酸味が強くなったりします。そのため、どんなに立派な大型魚でも著しく商品価値が低下してします。確かに、我々が想像するおいしいマグロのイメージとはかけ離れていますよね。

ヤケ肉発生主な原因は、魚体温の上昇とその後の冷却不足です。漁獲時に暴れると魚体温は30℃以上にもなり、そのまま何もしないでくとヤケ肉が発生してしまうと考えられています。これを低減するには、漁獲時に暴れさせないこと、魚体の中心まですばやく長時間冷やすことが必要です。

また、ヤケ肉は外観から判断することができません。さばいてみて初めて分かるという恐ろしい現象なのです。そのため、中央市場でヤケ肉が多発すると産地



図1 一昨年の由良総括支所に水揚げされた大型クロマグロ(水研撮影)

全体の価格とイメージが下がりがかねない事態に。命がけで操業している漁業者の方々を思うと、それだけは何とか防ぎたい…ということで、他県の事例を参考に、船上での魚体処理手順について、4月19日に漁協を通して情報提供させていただきました（図2）。この資料は「実際の操業ではここが難しい」や「もっとこうしたほうが良い」という声をもとに適宜改訂したいと思っておりますので、お気づきの点があれば資源利用部（0235-33-4382）までご連絡ください！

皆様の操業の安全と、今年も庄内浜にクロマグロフィーバーが巻き起こることを祈念しております。

山形県水産研究所 資源利用部 五十嵐 悠

令和5年4月版 クロマグロ鮮度保持資料 (山形県水産研究所資源利用部)

大型クロマグロの鮮度保持方法 船上での魚体処理手順

- ①暴れさせない（電気ショッカー活用等）
- ②エラの切断（脱血）
- ③口から注水し続ける（脱血）
- ④尻尾切除
- ⑤エラ・内臓除去
- ⑥冷水機や氷水で冷却（0℃以下）

※中心までよく冷えるように腹の中にも水を詰め、箱詰め直前まで冷やし込み

冷却不足＝ヤケ肉の原因＝品質低下

できる限り長い時間冷やす

参考文献：
1. 資源利用部センター水産総合研究所（2011）「まぐろヤケ肉防止技術開発事業」。
2. 山形県水産研究所 庄内漁業部、山形県水産総合センター 食品開発研究所（2010）「クロマグロヤケ肉軽減マニュアル」。

令和5年4月版 クロマグロ鮮度保持資料 参考情報 (山形県水産研究所資源利用部)

「ヤケ肉」とは

○ヤケ肉は外観からは判断できません！

○ヤケ肉の特徴

- ・身の色が白っぽいまたは茶褐色。
- ・保水性が失われ身がパサパサする、崩れやすい。
- ・酸味が強くなりおいしくない。においが悪い。
- ・夏季に増加する。（発生率 5月：5%、7月：20%）

▶発生すると商品価値が著しく低下します。

○考えられる要因

- ・漁獲時の暴れ→魚体温の上昇→冷却不足

※漁獲時は魚体温が30℃以上まで上昇します。

ヤケ肉を軽減するために

○魚体の冷却

50kg程度のマグロを5℃まで冷却するには、18～24時間かかります。

よく冷やすには長時間の冷却が必要！

また、エラ・内臓を除去することで効果的に中心まで冷却できます。（5℃まで冷却する所要時間が約4時間短縮）

冷却時間と魚体温の推移

冷却時間 (時間)	10kg	20kg	30kg	40kg	50kg
0	30	30	30	30	30
4	15	18	20	22	24
8	10	12	14	16	18
12	8	10	12	14	16
16	6	8	10	12	14
20	5	7	9	11	13
24	4	6	8	10	12

冷却時間とエラ・内臓有無の推移

冷却時間 (時間)	エラ・内臓有	エラ・内臓無
0	30	30
4	18	15
8	12	10
12	8	6
16	6	4
20	5	3
24	4	2

図2 大型クロマグロの鮮度保持方法(水研作成)

「海の羽根」募金にご協力をお願いします！

山形県海と渚環境美化推進協会では、海の環境美化を目的とした「海の羽根」募金活動を行います。

実施期間 7月1日から7月31日までの1か月間

募金場所 市役所、町村役場、庄内総合支庁、県漁協、釣具店など

豊かな山形県の
海を守るため皆様の活動、
よろしくお願いします。

未来につなげよう
青い海と
美しい渚

お問い合わせ先
庄内総合支庁 水産振興課内
山形県海と渚環境美化推進協会
TEL 0234-24-6161



JF共済からの
お知らせ「新型コロナウイルス感染症」にかかる
入院共済金等の取り扱いが変更となります

新型コロナウイルス感染症について、2023年5月8日から感染症法上の「**五類感染症**」に位置づけるとの政府方針を踏まえ、同疾患に対する各種取り扱いを以下のとおり見直します。

ご理解いただきますようお願い申し上げます。

1. 入院共済金の取り扱いについて

新型コロナウイルス感染症と診断された場合の入院共済金のお支払い範囲

治療の場所	対象の方	陽性判明日（診断日）		
		2022年9月25日以前	2022年9月26日～ 2023年5月7日迄	2023年5月8日以降 （五類移行後）
入院された場合 （約款における取扱）	全ての方	○お支払い対象	○お支払い対象	○お支払い対象
宿泊・自宅療養された 場合（みなし入院）	重症化リスクの高い方	○お支払い対象	○お支払い対象	×お支払い対象外
	上記以外の方	○お支払い対象	×お支払い対象外	

※2023年5月7日までに発生したみなし入院につきましては、請求が2023年5月8日以降となってもこれまで通りの対応を継続します。

2. 死亡共済金の取り扱いについて

これまで「新型コロナウイルス感染症」を直接の原因とした死亡は「災害扱い」として災害死亡共済金のお支払いをして参りましたが、「五類感染症」位置づけにより特定感染症の対象外となる為、「疾病扱い」として取り扱い、病氣死亡共済金のお支払いとなります。

なお、上記は概要となります。支払要件・請求手続き等詳細につきましては山形県漁業協同組合・JF共水連東北事業本部山形支店までお問合せ下さい。

漁業種類別前年度水揚げ対比表

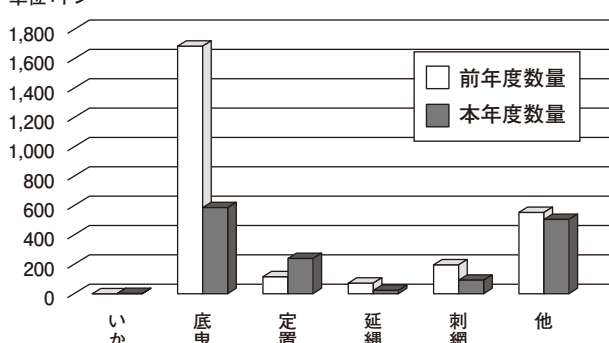
令和5年4月30日現在

(単位：kg, 千円)

	4月数量	本年度数量	前年度数量	数量増減	4月金額	本年度金額	前年度金額	金額増減
1 底曳網漁業	58,984	58,984	168,355	▲109,371	36,631	36,631	81,710	▲45,079
2 刺網漁業	9,041	9,041	20,339	▲11,298	7,029	7,029	13,584	▲6,555
3 いか一本釣漁業	0	0	0	0	0	0	0	0
4 船凍いか釣漁業	0	0	0	0	0	0	0	0
5 はえなわ漁業	2,729	2,729	7,989	▲5,260	3,915	3,915	6,602	▲2,687
6 ごち網漁業	0	0	0	0	0	0	0	0
7 定置網漁業	24,760	24,760	12,249	12,511	17,141	17,141	8,369	8,772
8 採貝藻漁業	5,672	5,672	9,301	▲3,629	10,506	10,506	13,308	▲2,802
9 その他の漁業	42,829	42,829	45,591	▲2,762	9,199	9,199	9,559	▲360
10 張網漁業	2,391	2,391	1,351	1,040	1,317	1,317	687	630
11 遊漁、直売、県外	0	0	0	0	1,565	1,565	1,995	▲430
合計	146,406	146,406	265,175	▲118,769	87,303	87,303	135,814	▲48,511

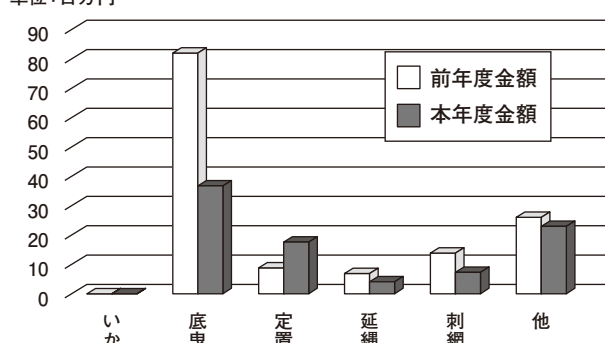
単位：トン

水揚げ数量対比表



単位：百万円

水揚げ金額対比表



水揚情報

令和5年4月30日現在

(単位：千円)

支所別 区 分		水揚合計	水 揚 地 内 訳							
			吹 浦	飛 島	酒 田	加 茂	由 良	豊 浦	温 海	念珠関
月 末 迄 水 揚 累 計		0	0	0	0	0	0	0	0	0
月 間 水 揚	県 内 船 水 揚	85,738	4,652	1,499	16,159	11,834	18,447	11,740	985	20,422
	県 外 船 水 揚	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計	85,738	4,652	1,499	16,159	11,834	18,447	11,740	985	20,422
前 年 同 月 水 揚		133,820	7,415	3,384	30,792	11,708	23,086	11,491	1,729	44,215
本 年 度 水 揚	県 内 船 水 揚	85,738	4,652	1,499	16,159	11,834	18,447	11,740	985	20,422
	県 外 船 水 揚	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計	85,738	4,652	1,499	16,159	11,834	18,447	11,740	985	20,422
前 年 度 水 揚 累 計		133,820	7,415	3,384	30,792	11,708	23,086	11,491	1,729	44,215
増 減		-48,082	-2,763	-1,885	-14,633	126	-4,639	249	-744	-23,793

令和4年度 水 揚 高

令和5年3月31日現在

(単位：千円)

支所別 区 分		水揚合計	水 揚 地 内 訳							
			吹 浦	飛 島	酒 田	加 茂	由 良	豊 浦	温 海	念珠関
本年度水揚	県内船水揚	1,721,091	100,400	66,704	345,931	118,910	322,912	169,446	30,400	566,388
	県外船水揚	770,299	0	0	711,899	0	0	0	0	58,400
	合 計	2,491,390	100,400	66,704	1,057,830	118,910	322,912	169,446	30,400	624,788
前年度水揚累計		2,096,963	86,025	57,514	875,035	112,474	262,904	149,735	31,176	522,100
増 減		394,427	14,375	9,190	182,795	6,436	60,008	19,711	-776	102,688
本年度水揚計画		2,400,000	95,000	68,500	1,047,000	144,500	308,000	195,000	34,000	508,000
達 成 率		103.8%	105.6%	97.3%	101.0%	82.2%	104.8%	86.8%	89.4%	122.9%



◇「新しい季節はなぜか切ない日々で……」と出会うのは私の青春を彩った1曲の冒頭の歌詞。出会うと別れの春を謳った名曲で今でも好きな曲ですが、近年の私の業務的には新しい季節の始まりである春は、年度末決算や総代会へ向けた準備等々、最も忙しい季節であって感傷的になつてゐる暇はありません。編集後記の依頼を受けた時期はそんな個人の繁忙期の真最中。「無理無理、他を探して」と言いたいところでしたが、同僚の強い推薦と圧力を受け引き受けることにしました。漁協に入つてはや十二年。初めての編集後記ですがよろしく願ひします。

◇漁協に入るまでは水産関係の仕事とは無縁だった私ですが、ここまでこの仕事を続けてこれたのは、諸先輩方や組合員の皆様から温かく支えていただいたきたのはもちろんですが、やはり魚が好きだったからではないでしょうか。子供の頃の私はさつこめが大好きで、暇があれば実家の裏にあるトブ川に網を入れ、泥々になりながらザリガニやどじょうや小魚を捕まえる日々を送っていました。網を上げた瞬間に、泥の中から赤黒いザリガニのハサミが見えたり、名前もわからない小魚の銀色の腹が見えた時は、宝物を見つけたように嬉しかったものです。その時の感動のようなもの、漁協初日の、由良総括支所の、競売室の、スチロール箱に詰められずりと並んだ魚たちを見た時に感じました。キラキラと、そしてキラキラと輝く魚が列をなして並んでいるのを見て、当時の私は「まるで魚の宝石箱や!!」と、叫んだかは定かではありませんが、とにかく感動したのは現在も覚えています。今は現場に出る機会が減つてしまいましたが、魚がたくさん水揚げされてゐる光景を見ることは、楽しいし嬉しいことに変わりはありません。この豊かな海の恵みがいづまでも続くように少しでもお手伝いできればと思つて存じます。

◇さて私事ではございますが、この春新しい命を家に迎えております。久しぶりの乳飲み子を抱える子育ては、可愛い嬉しい日々ではあります。大変さや苦勞も思い出さずにはありません。そんな感傷的にならぬ暇もない春を、頑張つて私は生きております。すいさん山形も充実した庄内浜の情報誌づくりに努めておりますので、どうかよろしく願ひします。

管理課長 本多 篤



山形県漁協女性部 令和4年度 通常総会

2列目中央三浦氏と女性部の皆さん



去る4月1日(土)、湯の浜温泉ホテルテトラリゾート鶴岡において、県漁協女性部通常総会が開催されました。

3年ぶりとなる開催でしたが、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、規模を大幅に縮小し、部員のみでの開催となり、協議については、全て原案通り可決承認されました。

総会終了後に行われた講演会では、料理研究家であり薬膳インストラクターとしてもご活躍されている三浦友加氏をお招きし、「薬膳あり！お笑いあり！庄内浜のアレコレうふ話」を題材にご講話いただきました。三浦氏は庄内浜文化伝道師として庄内浜のPR等にも携わっており、当女性部代表の和田光子部長とは鯛だしカレーの開発等で親交があるそうです。

本講演では、三浦氏が芸人時代の、女芸人ならではの苦労話を始め、食が人間の体にとっていかに大切なのかなど、まさに笑いあり涙ありのお話をうかがい、参加した皆さんにとって大変貴重な時間となったようでした。

5月にはいよいよコロナウイルスによる様々な規制が解除されます。コロナ禍を乗り越えてさらにパワーアップした女性部の皆さんのご活躍に期待です。

豊かな海づくり協会 現地研修会



山形県のアワビ放流方法 改善による効果の検証



3月23日に由良コミュニティセンターを会場に、令和元年にご講演いただいた東京海洋大学客員研究員の山川紘先生を再度講師に迎えて開催され、浅海漁

業者の各地区団体から27名の参加がありました。前回の山川先生の講演をきっかけに各地で始まったアワビ放流方法の見直しや改善の取り組みについて水産研究所の古山研究員が紹介した後に、山川先生からは全国の状況や山形県の現状についてご講演いただきました。山形県の磯見漁場は沖出しが短く条件の良くない漁場ではあるが、長期的には何とかアワビ資源を維持できているグループにあり、減少の大きい他県では壊滅状態のところも多いとのこと。山形県の標識放流後の生残率はまだ低く、食害生物が活発化する前の早期放流の取り組み徹底は効果が期待できるものの、さらなる取り組みの強化が必要との御意見をいただき、講演後は活発な質疑応答が行われました。

アワビの放流効果の向上による資源の復活に期待したいと思います。

庄内総合支庁水産振興課 専門水産業普及指導員 忠鉢 孝明



写真1

蓄 養 モ デ ル
実 証 事 業 に
コ い 乙



写真2

県では今年度も「蓄養モデル実証・実践事業」を実施しています。県栽培漁業センターの屋外水槽や小型水槽を無償でお貸しし、各種データの提供を条件に蓄養していただくものです。蓄養による安定供給や魚価向上を目指し、事業展開を見据えています。

過去には、定置網漁業者やえ縄漁業者の方々がヒラメ・アオリイカ・マフグ・マダイ等の蓄養試験に活用（写真1, 2）し、貴重なデータをいただきました。

今年度も蓄養希望者を募ったところ、7組の方々から活用希望の声をいただいております。ヒラメ・アオリイカ・マダイ等の蓄養が予定されています。（魚種等は漁獲状況により変更となる可能性があります）

まだ使用可能な水槽がありますので、活用希望の方は庄内総合支庁水産振興課普及担当までご連絡をお願いいたします！

庄内水産振興課 水産業普及指導員 斎藤 祥司